

野球競技人口減少に歯止めをかけるには

～指導方法の観点から～

1240436 小柴諒太

指導教員 中村智彰

研究背景

野球競技人口の減少に歯止めをかけるには、選手に対して適切な指導方法で指導をすることが重要である。私の実体験から適切な指導とは選手に主体性を促す指導なのではないかと考えるようになった。先行研究では、実際に選手は、どのような指導方法を望んでいるのか、また主体性を促す指導を受けることによって楽しさを感じ、達成感を得られるかについては明らかにされていない。そこで、野球経験者にアンケートを実施することで、選手目線の意見を得られるのではないかと考えた。

研究目的

本研究では、選手に主体性を促す指導をすることで、選手の技術が向上するのか、また、選手は、楽しさを感じ、達成感を得ることができるのかを調べることを目的とした。

研究方法

Google フォームを用いてアンケート調査を実施した。本アンケート調査は、今までに野球をしたことがある人(部活動やクラブチームに所属したことがある人)を対象とし、18 歳から 22 歳の男性 80 人から回答を得た。

分析結果

本アンケート調査の結果として、選手に主体性を促す指導をすることで、より技術の向上につながる事が明らかになった。そして選手は、技術が向上したことで楽しさを感じ、達成感も得られること、また、選手だけでミーティングを定期的に行うことでモチベーションが向上することも明らかになった。

考察・結論

分析結果を踏まえると、選手は、主体性を促す指導方法を受けることによって、自ら考えることで常に向上心を持って練習に取り組めるようになり、その結果、自身の技術が向上し、楽しさを感じ達成感を得られるようになったのではないかと考える。本研究の結果から選手に主体性を促す指導方法を取り入れることで、野球の楽しさが世間より伝わり、野球競技人口の減少に歯止めをかけられるのではないかと結論付けられる。